

総務政策常任委員会会議録

令和6年4月26日

場 所 第2委員会室

令和6年4月26日(金曜日)

総務事務センター課長
消防保安課長

後藤道洋
羽田貴一

午前10時2分開会

審査・調査事項

○総合政策及び行財政対策に関する調査

出席委員(8人)

委員 長	川添 博
副委員 長	山口 俊樹
委員	丸山 裕次郎
委員	濱砂 守
委員	後藤 哲朗
委員	坂本 康郎
委員	岩切 達哉
委員	黒岩 保雄

欠席委員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

総務部

総務部長	吉村 達也
危機管理統括監	児玉 憲明
総務部次長 (総務・市町村担当)	渡邊 世津子
総務部次長 (財務担当)	申間 俊也
危機管理局長兼 危機管理課長	中尾 慶一郎
総務課長	今村 俊久
人事課長	那須 隆輝
行政改革推進室長	池北 斉
財政課長	池田 幸優
財産総合管理課長	徳松 一豊
税務課長	蛭原 真治
市町村課長	小藪 真二

総合政策部

総合政策部長
政策調整監
総合政策部次長
(政策推進担当)
総合政策部次長
(県民生活担当)
総合政策課長
広域連携課長
秘書広報課長
広報戦略室長
統計調査課長
総合交通課長
中山間・地域政策課長
産業政策課長
デジタル推進課長
生活・協働・
男女参画課長
交通・地域安全対策監
みやざき文化振興課長
人権同和対策課長

重黒木 清
田中 克尚
大野 正幸
河野 龍彦
中村 智洋
川越 勉
伊東 浩
須波 勇一郎
伊福 隆徳
河村 直哉
濱川 哲一
守部 丈博
福崎 寿
森山 紀子
西丸 日出男
堀 尚子
中村 洋介

宮崎国スポ・障スポ局

宮崎国スポ・障スポ局長
宮崎国スポ・障スポ局
次長 兼
総務企画課長
競技・式典課長
施設調整課長
競技力向上推進課長

山下 栄次
長倉 正朋
佐藤 純一郎
財部 孝志
横山 美和

会計管理局

会計管理者兼
会計管理局長

米良 勝也

会計管理局次長 川口千鶴
会計課長 坂下利雄
物品管理調達課長 津野哲雄

人事委員会事務局

事務局長 田村伸夫
総務課長 小園浩孝
職員課長 児玉憲彦

監査事務局

事務局長 坂元修一
監査第一課長 牛ノ濱和秀
監査第二課長 林玲子

議会事務局

事務局長 小牧直裕
事務局次長 海野由憲
総務課長 福島久大
議事課長 菊池博
政策調査課長 西久保耕史

事務局職員出席者

議事課主査 春田拓志
議事課主任主事 上園祐也

○川添委員長 ただいまから総務政策常任委員会を開会いたします。

まず、委員席の決定についてであります。現在お座りの席のとおり決定してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○川添委員長 それでは、そのように決定いたします。

次に、本日の委員会の日程についてであります。

御覧の日程案のとおりでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○川添委員長 それでは、そのように決定いたします。

次に委員会の運営方法についてであります。執行部入替えの際は、委員長会議確認事項のとおり、10分程度の休憩を設けることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○川添委員長 それでは、そのように決定いたします。

執行部入室のため、暫時休憩いたします。

午前10時2分休憩

午前10時5分再開

○川添委員長 委員会を再開いたします。

先般の臨時会におきまして、私ども8名が総務政策常任委員会委員となったところでございます。私は、このたび委員長に選任されました宮崎市選出の川添博でございます。一言御挨拶を申し上げます。

総務政策常任委員会は、県の財政や人事、また危機管理、そして中山間、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会、様々な県政の重要課題、そして喫緊の課題を所管している委員会であると承知しております。微力ではございますが、円滑な委員会運営に努めるとともに、皆さんの御協力を得て、活発な議論を行って県政を前に進めていければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

次に、委員の皆様を御紹介いたします。

まず、私の隣が宮崎市選出の山口俊樹副委員長であります。

次に、向かって左側ですが、小林市・西諸県郡選出の丸山委員でございます。

延岡市選出の後藤委員でございます。

西都市・西米良村選出の濱砂委員でございます。

続きまして、向かって右側ですが、宮崎市選出の坂本委員でございます。

宮崎市選出の岩切委員でございます。

日南市選出の黒岩委員でございます。

次に、書記の紹介をいたします。

正書記の春田主査でございます。

副書記の上園主任主事でございます。

次に、部長の御挨拶、幹部職員の紹介並びに所管業務の概要説明等をお願いいたします。

○吉村総務部長 おはようございます。総務部長の吉村でございます。

年度当初、初めての委員会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

まず、川添委員長におかれましては、委員の皆様を御紹介いただきありがとうございます。また委員の皆様、今年度どうぞよろしくお願いいたします。

御承知のとおり、本県では、今年度3つの「日本一挑戦プロジェクト」の本格的な展開と、「宮崎再生」の着実な推進を重点施策といたしまして、様々な取組を実施していくこととしております。

さらに、3年後に開催されます国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の主要施設が、今年度より順次完成予定となっております。また、今年度、本県での開催が正式に決定される予定となっておりますので、開催準備もさらに本格化することとなっております。

総務部といたしましては、これらをはじめとした各部局の政策が円滑に進むようしっかりと下支えをしてまいります。

さらに、危機管理局におきましては、これま

で以上に様々な危機事象への対応が必要となっておりますし、実際に県内外で災害が発生した場合には、その司令塔として、また調整役としての役割も求められることとなっております。

一方で、人口減少の進展によりまして、県職員の採用が非常に厳しくなる中、多様化・複雑化します行政ニーズに的確に対応していくためには、将来にわたって持続可能な行財政基盤の確立が必要となります。

これら総務部に求められております役割をしっかりと果たしていくため、職員一同全力で取り組んでまいりますので、委員の皆様方におかれましては、御指導、御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

それでは、座って資料を説明させていただきます。

総務政策常任委員会の3ページをお願いいたします。

総務部幹部職員名簿になります。これらに沿って、課長、室長以上の職員及び議会担当職員を紹介させていただきます。

まず、危機管理統括監の児玉でございます。

総務・市町村担当次長の渡邊でございます。

財務担当次長の串間でございます。

危機管理局長兼危機管理課長の中尾でございます。

総務課長の今村でございます。

人事課長的那須でございます。

行政改革推進室長の池北でございます。

財政課長の池田でございます。

財産総合管理課長の徳松でございます。

税務課長の蛭原でございます。

市町村課長の小菌でございます。

総務事務センター課長の後藤でございます。

消防保安課長の羽田でございます。

最後に、県議会担当である総務課主幹の小野でございます。

次に、4ページをお願いいたします。

総務部の組織になります。

本庁が総務課から消防保安課までの9課1室、出先機関につきましては、県税・総務事務所の7事務所、自治学院、西臼杵支庁、防災救急航空センター、消防学校の11所属であります。

5～7ページにかけまして、本庁及び出先機関の課及び担当の構成を記載しております。後ほど御確認ください。

8～11ページにかけまして、各課の分掌事務を記載しております。こちらも後ほど御確認ください。

12ページをお願いいたします。

令和6年度総務部当初予算といたしまして、課別の歳出予算額を記載しております。

総務部の予算額の合計は、表の一番下の合計欄に記載のとおり、一般会計と特別会計を合わせまして2,277億678万4,000円で、その右に記載しております令和5年度6月補正後、いわゆる肉づけ後と比較しますと、98.7%となっております。

次のページをお願いいたします。

総務部の新規・重点事業を記載しております。

このうち、上から2つ目、財産総合管理課の新規事業「環境配慮型県庁立体駐車場整備事業」は、太陽光パネルや電動車充電設備を備え、浸水時には一時避難施設にもなる外来及び公用車兼用の立体駐車場を整備するもので、この事業によりまして、本庁舎周辺の公用車駐車場の集約化も図ります。

次のページをお願いいたします。

一番下の消防保安課の新規事業「消防学校訓練機能強化事業」は、増加します女性消防職員

用の女子寮を新設するための設計や、より実践的な訓練を行う施設の整備に向けた調査等を行うものであります。

最後に、記載はありませんが、財政課の予算には、県立病院事業への貸付金50億円が含まれております。

○川添委員長 執行部の説明が終わりました。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○川添委員長 ないようですので、以上をもって総務部を終わります。執行部の皆様、お疲れさまでした。

暫時休憩いたします。

午前10時14分休憩

午前10時21分再開

○川添委員長 委員会を再開いたします。

先般の臨時会におきまして、私ども8名が総務政策常任委員会委員となったところでございます。私は、このたび委員長に選任されました宮崎市選出の川添博でございます。一言御挨拶を申し上げます。

総務政策常任委員会は、県の財政や人事、また危機管理、そして中山間、総合交通、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会、県政の喫緊かつ最重要課題を所管している委員会だと承知しております。微力ではございますが、円滑な委員会の運営に努めつつ、また皆さんの御協力も頂いて、活発な議論を行って県政を前に進めていければと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

次に、委員の皆様を御紹介いたします。

まず、私の隣が宮崎市選出の山口俊樹副委員長であります。

次に、向かって左側ですが、小林市・西諸県

郡選出の丸山委員でございます。

延岡市選出の後藤委員でございます。

西都市・西米良村選出の濱砂委員でございます。

続きまして、向かって右側ですが、宮崎市選出の坂本委員でございます。

宮崎市選出の岩切委員でございます。

日南市選出の黒岩委員でございます。

次に、書記の紹介をいたします。

正書記の春田主査でございます。

副書記の上園主任主事でございます。

次に、部長の御挨拶、幹部職員の紹介並びに所管業務の概要説明等をお願いいたします。

○重黒木総合政策部長 おはようございます。総合政策部長の重黒木でございます。令和6年度最初の委員会ということで、今年度1年間、どうぞよろしくをお願いいたします。

総合政策部につきましては、県全体の政策立案や総合調整を所管しているほか、経済・雇用対策や総合交通、中山間地域対策や産業政策、さらには、多様な主体による協働の推進や県政情報の発信、そして文化の振興や人権の啓発、そういった幅広い分野で県民生活と密接につながる業務を所管しているところでございます。

今年度からは、「日本一挑戦プロジェクト」を本格展開いたします。本県の強みを生かしながら、新たな成長に向けた取組について推進してまいりたいと考えております。

人口減少はもとより、直面する課題がたくさんございますけれども、職員一丸となって取り組んでまいりますので、委員の皆様方の御支援と御指導をよろしくをお願いいたします。

それでは、座って全体概要を説明させていただきます。

お手元の委員会資料3ページを開きください。

まず、総合政策部の幹部職員を紹介させていただきます。

まず、政策調整監の田中克尚でございます。

政策推進担当次長の田中克尚でございます。

県民生活担当次長の河野龍彦でございます。

総合政策課長の中村智洋でございます。

広域連携課長の川越勉でございます。

秘書広報課長の伊東浩でございます。

広報戦略室長の須波勇一郎でございます。

統計調査課長の伊福隆徳でございます。

総合交通課長の河村直哉でございます。

中山間・地域政策課長の濱川哲一でございます。

産業政策課長の守部丈博でございます。

デジタル推進課長の福崎寿でございます。

生活・協働・男女参画課長の森山紀子でございます。

交通・地域安全対策監の西丸日出男でございます。

みやざき文化振興課長の堀尚子でございます。

人権同和対策課長の中村洋介でございます。

最後に、議会担当である総合政策課主幹の宗像幹祐でございます。

以上でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、委員会資料4ページを御覧ください。

総合政策部の組織について御説明申し上げます。

総合政策部は、上にごございますように、本庁11課1室、出先機関4つで構成しております。

赤字の部分が、昨年度からの組織改正の部分でございます。

改正点を簡単に御説明申し上げます。

まず1つ目が、広域連携課でございます。こ

これは、河野知事の九州地方知事会長への就任に伴いまして、これまでの全国知事会の地方税財政常任委員会事務局の業務に加えて、新たに九州地方知事会事務局の業務に対応するため、従前の総合政策課の課内室でありました「広域連携推進室」を格上げしまして、「広域連携課」として強化を図ったものでございます。

次に、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会を担当する組織の移管でございます。組織図にはございませんけれども、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けまして、組織体制の強化を図るため、部相当の組織として「宮崎国スポ・障スポ局」を4月から新たに設置しております。

これに伴いまして、昨年度まで総合政策部にございました「国スポ・障スポ準備課」と「競技力向上推進課」がなくなりまして、「宮崎国スポ・障スポ局」内に新たな組織が設置されております。

そのほか、デジタル推進課及び福岡事務所におきまして、担当レベルでの組織改正を行っております。

次に、5～9ページにかけましては、各課の所管業務を記載しておりますので、こちらにつきましては後ほど御覧いただければというふうに思います。

次に、10ページを御覧ください。

令和6年度の総合政策部当初予算についてでございます。

表の上段にあります一般会計の右下、合計欄にありますとおり、総合政策部の一般会計当初予算額は207億892万7,000円で、令和5年度6月補正後の予算額と比較しまして2億5,622万7,000円の減、率にしますと98.8%であります。

また、ページ左下にあります宮崎県開発事業

特別資金特別会計の当初予算額は2,003万3,000円であり、令和5年度6月補正後の予算額と同額となっております。

この結果、一般会計と特別会計を合わせました総合政策部の令和6年度当初予算額の合計は、右下の合計欄にありますとおり207億2,896万円です。

次に、11ページを御覧ください。

令和6年度の総合政策部に関する主な新規・重点事業でございますけれども、その主なものについて御紹介いたします。

まず、表の一番上、総合政策課の新規事業「日本一挑戦プロジェクト推進基金積立金」につきましては、「子ども・若者」、「グリーン成長」、「スポーツ観光」の3つの「日本一挑戦プロジェクト」につきまして、それぞれ本格展開するための施策を安定的かつ機動的に推進するため、新たに基金を設置したものであります。

次に、その下の秘書広報課広報戦略室の新規事業「みやざき魅力発信プロジェクト事業」につきましては、SNS広告等を活用して本県のような魅力を伝えたい相手に効果的に届けることにより、本県の認知度・好感度の向上及び新たな関係・交流人口の獲得につなげるものでございます。

次に、総合交通課の上から3つ目、新規事業「東九州新幹線等調査事業」につきましては、東九州新幹線における複数のルートなどにつきまして、整備費用や費用対効果、課題の整理等の調査を行うとともに、県民等を対象としたシンポジウムを開催しまして、整備に向けた機運の醸成を図るものでございます。

その2つ下の新規事業「バス利用促進強化事業」につきましては、昨年度策定いたしました宮崎県地域公共交通計画に基づきまして、県・

市町村・バス事業者等で構成する「宮崎県バス利用促進協議会」を新たに設置し、関係者間で必要な検討を行いながら、効果的な利用促進策などに取り組むものでございます。

その2つ下の新規事業「九州M a a S推進事業」につきましては、専用アプリで交通機関等の検索・予約・決済を一括で行います「M a a S」につきましては、これまで各県、各地域ごとに取組を進めてきたものを九州全域で一体的にサービスを提供するため、必要な取組を進めるものであります。

その下の改善事業「「みやざきの空」航空ネットワーク再生事業」につきましては、国際定期便を運航する航空会社に対する運航経費の一部支援や、航空会社等と連携した利用促進キャンペーン、国際線を利用する全県民を対象としたパスポート取得支援などを行うものでございます。

12ページを御覧ください。

中山間・地域政策課の下から4つ目の新規事業「ひなた暮らし体験促進事業」につきましては、担い手不足に悩む地方の事業者と地方に興味のある都市部の方々をマッチングしまして、本県での仕事と暮らしを体験する取組を促進し、関係人口の拡大を図るものでございます。

その下の「みやざきとのつながり創出プロモーション事業」につきましては、宮崎県の人や暮らしを身近に感じられるPR動画の作成・発信と併せまして、航空会社等とタイアップしたキャンペーンなど、都市圏でのプロモーションを行い、将来の移住検討層の拡大などを図るものでございます。

その2つ下の新規事業「移住者の受入環境づくりサポート事業」は、移住者の受入れに欠かせない住まいに関する環境づくりを進めるもの

でございまして、空き家の利活用を啓発する講演会の開催や、市町村に対して空き家アドバイザーを派遣し、必要な伴走支援や空き家所有者からの相談・サポートを行うものでございます。

13ページを御覧ください。

産業政策課でございますけれども、上から2つ目の新規事業「みやざき新ビジネス創出支援事業」につきましては、県内企業に対し、デザイン経営の手法を身につけるためのセミナーの開催や、販路拡大等を支援しまして、新技術等の確立及び新事業の創出につなげようとするものでございます。

中ほどの「みやざきDXさきがけプロジェクト推進事業」につきましては、DXの事例等を学ぶセミナーや、DXに向けた実践的な研修を行うDX塾のほか、学生を対象とするITスキル研修などを実施するものでございます。

その2つ下の「産業デジタル実装支援事業」につきましては、県内事業者の規模や業種に応じたデジタル技術等の導入に要する経費を支援するものでございます。

次に、デジタル推進課の下から2つ目の「自治体DXサポート強化事業」につきましては、高度な専門性を有する事業者による市町村ごとの個別の課題整理や相談対応、研修会開催など、実情に応じた伴走支援を実施するものでございます。

14ページを御覧ください。

デジタル推進課でございますけれども、一番上の新規事業「生成AIシステム導入事業」につきましては、県庁内に生成AIシステムを安全に利用できる環境を整えまして、職員が資料の作成や文書の要約などに活用することで、業務効率化や生産性向上を図るものでございます。

次に、生活・協働・男女参画課でございます

けれども、下から3つ目の新規事業「女性活躍推進アウトリーチ型総合支援事業」につきましては、企業が女性参画を推進するためのアドバイザーの派遣など、企業や働く女性のニーズにマッチした支援等を行うものでございます。

15ページを御覧ください。

みやざき文化振興課でございます。上から3つ目、改善事業「文化で築くみやざきの活力創出事業」は、文化を活用した地域課題の解決に資する取組を推進するため、市町村や地域住民の方々が地域課題を共有しながら、芸術家などの専門的人材を交えたプロジェクトの検討を行い、モデル事業として実施していくものでございます。

その下の新規事業「デジタル×伝統」神楽でつなぐ地域活性化事業」は、VRなどのデジタル技術を活用した神楽のコンテンツを制作いたしまして、令和7年度の大阪・関西万博や、その後の県内外のイベントなどで活用を行うことで、神楽をはじめとする本県の文化資源の魅力の発信、さらには神楽のユネスコ無形文化遺産への早期登録につなげていこうというものでございます。

主な新規事業等は以上でございます。

○川添委員長 執行部の説明が終わりました。質疑はありませんか。

○山口副委員長 4ページの組織のところでお伺いします。担当レベルの組織改編については、説明を省略されたかと思うんですが、その担当レベルのところの組織改編の意図などを教えてくださいませんか。

○重黒木総合政策部長 デジタル推進課につきましては、今年度から県庁内や市町村のデジタル化をしっかりと推進していこうというところです。去年からやっておりましたが、少し名称が

分かりにくいところがありましたので、「デジタルガバメント担当」という名称にしていたところを、「地域デジタル担当」と「デジタル県庁担当」に改編しているところでございます。

これに伴いまして、デジタル推進課の中に新たに人員配置を行いました。県庁内の各部各課のデジタル化の支援を一緒になって行うという職員を新たに配置したりして、自治体や県庁内のデジタル化の推進をしっかりと強化していこうというところでございます。

福岡事務所のほうは、従来、2担当制にしておりましたが、担当課の業務が重なり合う部分が多々ございました。中身はそう大きく変わるものではないのですが、一緒にすることで、両方しっかりと動けるような形にして、担当の統合を図って組織の強化を図ろうというものでございます。

○川添委員長 ほかはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○川添委員長 それでは以上をもって総合政策部を終わります。執行部の皆様、お疲れさまでした。

暫時休憩いたします。

午前10時38分休憩

午前10時43分再開

○川添委員長 委員会を再開いたします。

先般の臨時会におきまして、私ども8名が総務政策常任委員会委員となったところでございます。私は、このたび委員長に選任されました宮崎市選出の川添博でございます。一言御挨拶を申し上げます。

総務政策常任委員会は、県の財政、人事、そして危機管理、それから中山間、総合交通等、そして国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ

大会ということで、県政において喫緊かつ最重要課題を所管している委員会だと承知しております。

微力ですけれども、円滑な委員会運営を努めるとともに、皆さんの御協力を得まして、活発な議論で県政を前に進めていければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、委員の皆様を御紹介いたします。

まず、私の隣が宮崎市選出の山口俊樹副委員長でございます。

次に、向かって左側ですが、小林市・西諸県郡選出の丸山委員であります。

延岡市選出の後藤委員であります。

西都市・西米良村選出の濱砂委員でございます。

続きまして、向かって右側ですが、宮崎市選出の坂本委員でございます。

宮崎市選出の岩切委員でございます。

日南市選出の黒岩委員でございます。

次に、書記の紹介をいたします。

正書記の春田主査でございます。

副書記の上園主任主事でございます。

次に、局長の御挨拶、幹部職員の紹介並びに所管業務の概要説明等をお願いいたします。

○山下宮崎国スポ・障スポ局長 おはようございます。この4月に宮崎国スポ・障スポ局長を拝命いたしました山下でございます。

委員の皆様におかれましては、「日本のひなた宮崎国スポ・障スポ」の開催準備に当たりまして、御理解・御協力を賜っており、深く感謝を申し上げます。

今年は、いよいよ令和9年度に本県で国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会を開催することが正式決定する節目の年でございます。

後ほど御説明いたしますが、大会開催に向け

た準備体制をより強化するため、この4月から部並びの組織としまして、この宮崎国スポ・障スポ局が新設されたところでございます。

今年度、当局におきましては、大会開催の正式決定に伴いまして、官民一体となった準備委員会を執行委員会に移行しますほか、大会のイメージソングのお披露目ですとか、開催決定イベント等を行うこととしております。

また、陸上競技場とプールが完成することに加え、競技力向上のさらなる推進などに取り組むこととしております。

引き続き、3年後に迫りました大会の成功に向けまして、職員一丸となって取り組んでまいりますので、委員の皆様の御指導と御支援を賜りますようお願いいたします。

それでは座って説明させていただきます。

委員会資料の3ページを御覧ください。

幹部職員を紹介させていただきます。

まず、宮崎国スポ・障スポ局次長兼総務企画課長の長倉正朋です。

競技・式典課長の佐藤純一郎です。

施設調整課長の財部孝志です。

競技力向上推進課長の横山美和です。

総務企画課課長補佐兼競技・式典課課長補佐の宮本武郎です。

施設調整課課長補佐（総括）の吉田唯です。

施設調整課課長補佐（技術）の小野泰和です。

競技力向上推進課課長補佐（総括）の後藤雄一郎です。

競技力向上推進課課長補佐（競技担当）の都甲尚生です。

最後に、議会担当である総務企画課主幹の村田天秀です。

幹部紹介は、以上となります。よろしくお願い申し上げます。

それでは、資料の2ページ目にお戻りいただきたいと思います。

本日は、目次のⅡ～Ⅳにありますとおり、当局の組織、分掌事務、当初予算につきまして概要を御説明いたします。

委員会資料の4ページを御覧ください。

組織一覧表を掲載しております。先ほど申し上げましたとおり、4月1日付の組織改正によりまして、宮崎国スポ・障スポ局が新設されまして、「総務企画課」、「競技・式典課」、「施設調整課」及び「競技力向上推進課」の4課を設置し、総合政策部で所管していた国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に関する業務を、宮崎国スポ・障スポ局が担ってまいります。

職員数につきましても、昨年度は、国スポ・障スポ準備課及び競技力向上推進課を合わせて45人でしたが、今年度は63人へと増員させており、準備体制を強化しております。

5ページに各課の分掌事務を掲載しております。後ほど御覧いただければと存じます。

次に、6ページを御覧ください。

当初予算でございます。表の左から2列目の令和6年度の当局の当初予算額の合計欄に記載しておりますとおり、今年度の局の当初予算は208億4,520万6,000円となっております。右側の令和5年度当初予算と比較して109億6,393万8,000円の増、率にしますと211%でございます。

続きまして、7ページを御覧ください。

令和6年度の主な新規・重点事業を整理しております。

主なものですが、まず1段目の「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会事業」では、国スポ・障スポ大会の本県開催に向けまして、宮崎県準備委員会の総会等の運営をはじめ、競

技団体が行う競技役員養成に対する支援や、市町村が行う競技施設整備への支援、各種広報活動等の開催準備を行うとともに、県有主要3施設等を整備するものでございます。

次に、競技力向上推進課の一番上、その次の段ですが、「ターゲットエイジ強化プロジェクト」は、宮崎国スポ開催時に少年種別の中心となる、今年度の小学校6年から中学校3年までの世代に絞った有望選手に対しまして、重点強化を図るため、指定選手として県外遠征や強化合宿等への支援を行うものでございます。

2つ下の改善事業「みやざきの次代を担う少年競技力育成事業」は、本県スポーツの次代を担う中学生、高校生の競技力向上を図るため、強化指定校の遠征費や下宿生支援等に係る経費を支援するものです。

さらに2つ下の新規事業「競技力向上推進員確保事業」につきましても、宮崎国スポでの天皇杯獲得に向けまして、競技力の高い成年有望選手を競技力向上推進員として県スポーツ協会で雇用し、自身の競技力を高めながら、県内の中学校・高等学校の部活動指導や強化練習会等に参加することによりまして、本県の競技力の底上げを図るものでございます。

最後に一番下の新規事業「宮崎をテニスの聖地へ テニス競技強化支援事業」は、県の総合運動公園庭球場が国際水準のテニスコートとして整備されることを契機としまして、本県のシンボルスポーツとしてテニス競技の普及・振興を図るとともに、スポーツランドみやざきをテニス競技の聖地としても広く発信していくため、大会の開催や県内を拠点とするトップ選手への支援を通じた競技力向上等に係る経費を支援するものでございます。

8ページ以降に、新規・改善事業に関する資

料を添付しておりますので、後ほど御覧いただければと存じます。

○川添委員長 執行部の説明が終わりました。質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○川添委員長 それでは、以上をもって宮崎国スポ・障スポ局を終わります。執行部の皆様、お疲れさまでした。

暫時休憩いたします。

午前10時53分休憩

午前10時56分再開

○川添委員長 委員会を再開いたします。

先般の臨時会におきまして、私ども8名が総務政策常任委員会委員となったところであります。私は、このたび委員長に選任されました宮崎市選出の川添博でございます。一言御挨拶を申し上げます。

総務政策常任委員会は、県の財政や人事、そして危機管理局、そして中山間や国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会等、県政の喫緊かつ最重要課題を所管している委員会であると承知をしております。

その中でも、会計管理局、そして人事委員会等、県政を進める上での根幹のセクションであると認識しております。

微力ですが、皆さんの御協力をいただきながら活発な議論を進めて、そして県政を前に進めていきたいと思っております。どうぞよろしく願いたします。

次に、委員の皆様を御紹介いたします。

まず、私の隣が宮崎市選出の山口俊樹副委員長でございます。

次に、向かって左側ですが、小林市・西諸県郡選出の丸山委員でございます。

延岡市選出の後藤委員でございます。

西都市・西米良村選出の瀧砂委員でございます。

宮崎市選出の坂本委員でございます。

宮崎市選出の岩切委員でございます。

日南市選出の黒岩委員でございます。

次に、書記の紹介をいたします。

正書記の春田主査でございます。

副書記の上園主任主事でございます。

それでは、会計管理者に、幹部職員の紹介並びに所管業務の概要説明等をお願いいたします。

○米良会計管理者 会計管理者兼会計管理局長の米良でございます。どうぞよろしく願いたします。

会計管理局におきましては、各部局が取り組む事業の円滑な遂行を支えるべく、適正な会計事務及び物品管理調達事務に努めてまいります。

川添委員長をはじめ、委員の皆様方の御指導をどうぞよろしく願いたします。

それでは、座って説明を申し上げます。

総務政策常任委員会資料の3ページを御覧ください。

初めに、幹部職員を紹介いたします。

会計管理局次長の川口千鶴でございます。

会計課長の坂下利雄でございます。

物品管理調達課長の津野哲雄でございます。

なお、各課の課長補佐につきましては、名簿に記載のとおりでございます。

次に、資料の4ページを御覧ください。

会計管理局の組織及び業務概要についてであります。

会計管理局は、会計課と物品管理調達課の2課体制となっております。

会計課におきましては、総務・国費担当以下6つの担当、物品管理調達課におきましては2

つの担当を置いております。

それぞれの担当業務の内容につきましては、担当名の右側に記載しているとおりでございます。会計課におきましては、現金の支払い・収納や支出命令書等の審査、本庁・出先機関職員の会計事務支援などを行っております。

また、物品管理調達課におきましては、物品の管理、使用状況等の指導・検査、本庁及び宮崎地区の物品の調達などの業務を行っております。

5ページを御覧ください。

令和6年度の予算の概要についてであります。

(1)の当初予算額は、表の一番上、令和6年度当初予算額の欄にありますとおり6億3,547万2,000円となっております。

その主なものにつきましては、(2)の予算の概要に記載のとおり、真ん中の表の会計管理費につきましては、財務会計システム運営管理費など、下の表の財産管理費につきましては、物品調達システム運営費などです。

○川添委員長 執行部の説明が終わりました。質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○川添委員長 それでは、人事委員会事務局長に、幹部職員の紹介並びに所管業務の概要説明等をお願いいたします。

○田村人事委員会事務局長 人事委員会事務局長の田村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

人事委員会は3名の委員で構成されておまして、地方自治法や地方公務員法に基づき、専門・中立的な立場で人事行政に関する業務を執行しております。

私どもはその事務局としてしっかりとその役割を果たしてまいりたいと考えておりますので、

川添委員長をはじめ、委員の皆様には御指導いただきますようよろしくお願い申し上げます。

それでは、座って説明させていただきます。

常任委員会資料の3ページを御覧ください。

まず、人事委員会事務局の幹部職員を紹介させていただきます。

私の左手から、総務課長の小園浩孝です。

職員課長の児玉憲彦です。

なお、課長補佐2名につきましては、名簿に記載のとおりであります。

4ページを御覧ください。

人事委員会事務局の組織であります。総務課に総務担当と任用担当、職員課に給与担当と審査担当がそれぞれ置かれており、職員数は事務局長以下16名です。

5ページを御覧ください。

事務局の各担当との分掌事務であります。主なものとし、総務課の任用担当においては、職員の競争試験や職員の選考に関すること。職員課の給与担当においては、給与に関する報告及び勧告に関すること。審査担当においては、職員の不利益処分についての審査請求の審査に関することなどです。

6ページを御覧ください。

令和6年度の当初予算の概要であります。当初予算額は、左から2列目の1億5,280万9,000円で、内訳としましては、委員会費659万1,000円が人事委員3名の報酬と、人事委員会の開催や活動に要する経費であります。

また、その下、事務局費1億4,621万8,000円が、事務局職員の人件費のほか、県職員採用試験の実施に要する経費、給与勧告等における調査研究に要する経費などとなっております。

また、お手元には、県職員採用案内パンフレット及び4月23日から受付を開始しました大学卒

業程度の県職員採用試験案内をお配りしておりますので、後ほど御覧いただければと思います。

○川添委員長 執行部の説明が終わりました。質疑はございませんか。

○岩切委員 昨年度の2月の議会で、人事委員長にもお尋ねしたんですが、県の採用は目標を満たせていないという状況が、総務部からも報告されました。

今、まさに募集時期なんですけれども、この募集に当たって必要とする人材を満たそうということで、どのような努力をなさっているのかをお聞かせいただきたいと思います。

○小園人事委員会事務局総務課長 最近の受験者の状況といいますと、やはり民間も含めて人材獲得競争が激しくなっております。特に技術職については競争倍率が2倍程度ということで大変厳しい状況でございます。

受験者確保の取組としましては、まず3月に就職ガイダンスを実施しました。今回は200名程度だったんですが、学生対象にオンラインでガイダンスを実施したところであります。

また、例年実施しているんですが、大学説明会も行っております。大学を、一昨年よりも少し多い回数訪問して、できるだけ多く受験していただけるような取組も行ったところであります。

あと、今はSNSを使っており、ホームページやLINE等を活用しながら、受験者の確保に取り組んでいるところでございます。

○岩切委員 6月議会の前に募集が大体終わっていきますので、今、お尋ねするんですが、募集からスタートして、足りませんという結論ではやっぱりよろしくないと思います。

宮崎国スポ・障スポ局から、45名から63名に増員しましたということで報告いただいたばかり

りなんです。そうすると、ほかの課からも人員が集中していると思います。採用も足りないということになると、一般の所属はますます人が足りていないという状況が推察されます。

あと技術職においては、極端な人手不足になっていて、本庁の調整をする係の方が現場に赴いてフォローをしているという状況も聞かせていただいております。人事委員会の御奮闘を期待しているところでございますから、5月21日までに必要な数の受験者を確保できるようにぜひ御尽力いただきたいと思います。

○小園人事委員会事務局総務課長 今年度から春試験を設けております。春にできるだけ受験者を確保して、優秀な人材を確保するというのをまずは念頭に置いております。

また、春試験の状況を踏まえて、万が一確保できない場合には、秋試験もやるということで公表しておりますので、そういった二段構えで受験者を確保して、優秀な人材を確保していきたいと考えております。

○川添委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○川添委員長 それでは、以上をもって、会計管理局及び人事委員会事務局を終わります。執行部の皆様、お疲れさまでした。

暫時休憩いたします。

午前11時8分休憩

午前11時10分再開

○川添委員長 委員会を再開いたします。

先般の理事会におきまして、私ども8名が総務政策常任委員会委員となったところでございます。私は、このたび委員長に選任されました宮崎市選出の川添博でございます。一言御挨拶を申し上げます。

総務政策常任委員会は、県の財政や人事、そして危機管理、それから中山間、そして国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会と、県政の喫緊かつ重要課題を所管していると承知しております。

その中でも監査事務局、それから県議会事務局等は、県政をしっかりと運営をしていく大切なポジションであると承知しております。

まだ未熟で力不足ですが、しっかり円滑な委員会運営を行ってまいりたいと思います。皆様の御協力をいただき、そして県政を前に進めていければよいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、委員の皆様を御紹介いたします。

まず、私の隣が宮崎市選出の山口俊樹副委員長でございます。

次に、向かって左側ですが、小林市・西諸県郡選出の丸山委員でございます。

延岡市選出の後藤委員でございます。

西都市・西米良村選出の濱砂委員でございます。

続きまして、向かって右側ですが、宮崎市選出の坂本委員でございます。

宮崎市選出の岩切委員でございます。

日南市選出の黒岩委員でございます。

次に、書記の紹介をいたします。

正書記の春田主査でございます。

副書記の上園主任主事でございます。

それでは、監査事務局長に、幹部職員の紹介並びに所管業務の概要説明等をお願いいたします。

○坂元監査事務局長 監査事務局長の坂元でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

監査事務局におきましては、4人の監査委員による監査が円滑に行われますよう努めてまい

りますので、川添委員長をはじめ、委員の皆様方には御指導を頂きますようよろしくお願いいたします。

それでは、座って説明させていただきます。

最初に、事務局職員を紹介させていただきます。

委員会資料の3ページになりますけれども、(2)の監査事務局役付職員を御覧ください。

私の左隣が、監査第一課長の牛ノ濱和秀でございます。

後方が、監査第二課長の林玲子でございます。

次に、監査委員につきましては、資料の同じページになりますけれども、(1)に記載しておりますとおり、識見を有する者から選任された川野美奈子監査委員と木下博義監査委員、議員から選任された日高博之監査委員と後藤哲朗監査委員でございます。なお、代表監査委員には、川野美奈子監査委員が選任をされております。

次に、資料の4ページを御覧ください。

監査委員の補助機関であります監査事務局の組織と分掌事務でございます。事務局は、2課5班体制で、職員は20名となっております。

右の表にありますとおり、監査第一課では、監査のほか、普通会計の決算審査、財政健全化審査等に関することを所管しております。

また、監査第二課では、監査のほか、公営企業会計の決算審査及び経営健全化審査等に関することを所管しております。

次に、5ページを御覧ください。

当事務局の予算の状況でございます。

令和6年度当初予算額は、一番上の段の(款)総務費として、総額で2億570万3,000円となっております。

このうち、その下の段の(項)総務管理費は、外部監査の実施に要する経費でございます。

また、その2つ下の段の、(項) 監査委員費は、監査委員及び事務局職員の人件費及び運営費でございます。

最後に、6ページをお開きください。

今年度の監査等実施計画でございます。

先ほど御説明いたしました4名の監査委員によりまして、地方自治法等に基づき、御覧のような監査等を実施することとしております。

○川添委員長 執行部の説明が終わりました。質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○川添委員長 ないようですので、次に、県議会事務局長に、幹部職員の紹介並びに所管業務の概要説明等をお願いいたします。

○小牧議会事務局長 県議会事務局長の小牧でございます。よろしくをお願いいたします。

県議会事務局におきましては、4月1日付の人事異動により、合計18人の職員が異動したところでございます。

新体制におきましても、引き続き、県議会の円滑な運営のため、職員一丸となりまして取り組んでまいりますので、川添委員長をはじめ、委員の皆様方には、御指導のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、座って説明をさせていただきます。

まず、職員を紹介させていただきます。

私の隣からでございます。事務局次長の海野由憲でございます。

総務課長の福島久大でございます。

議事課長の菊池博でございます。

政策調査課長の西久保耕史でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

次に、お手元の委員会資料で、事務局の組織と事業概要等について、御説明をいたします。

3ページを御覧ください。

県議会事務局の組織となっております。局長、次長の下、総務課、議事課、政策調査課の3課6担当制で、31名の職員体制となっております。

4ページに事務局職員の名簿、そして5ページに各課の主な事務分掌を掲載しておりますので、これは後ほど御覧いただきたいと存じます。

続きまして、6ページを御覧ください。

事務局の令和6年度当初予算の状況でございます。

まず、(1)歳入でございます。財産収入や繰入金などを合わせまして852万6,000円となっております。

次に、(2)歳出であります。議会費が7億5,133万8,000円、事務局費が4億3,654万円、歳出総額は11億8,787万8,000円で、前年度と比較しまして6.1%の増額となっております。

7ページを御覧ください。

歳出予算の主な内容についてでございます。

まず議会費でございますが、主に議員報酬、本会議や各委員会の開催、各負担金及び政務活動費交付金に要する経費などであります。

8ページを御覧ください。

次に、事務局費であります。主に事務局職員の人件費や議会広報、事務局運営に要する経費でございます。今年度におきましては、インターネット中継機器や議長公用車の更新を行いますほか、令和7年度にかけて議場照明のLED化、議会史編さんを行います。

○川添委員長 執行部の説明が終わりました。質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○川添委員長 それでは、ないようですので、以上をもって、監査事務局及び議会事務局を終わります。執行部の皆様、お疲れさまでした。

暫時休憩いたします。

午前11時20分休憩

午前11時21分再開

○川添委員長 それでは委員会を再開いたします。

ここで4月17日に行われました委員長会議の内容について、御報告いたします。

委員長会議において、お手元に配付の委員長会議確認事項のとおり、委員会の運営に当たったの留意事項等を確認いたしました。

時間の都合もありますので、主な事項についてのみ御説明をいたします。

まず、タブレット資料3ページをお開きください。紙資料は1ページになります。

(5)の閉会中の常任委員会についてであります。

定例会と定例会の間に原則として1回以上開催し、また、必要がある場合は、適宜、委員会を開催するという内容であります。

次のページをお開きください。

(7)の執行部への資料要求につきましては、委員から要求があった場合、委員長が委員会に諮った後、委員長から要求するという内容であります。

(8)の常任委員長報告の修正申入れ及び署名についてであります。

本会議で報告する委員長報告について、委員会でその内容を委員長一任と決定した場合、各委員が修正等の申入れを行う場合は、委員長へ直接行うこと。報告の署名は、委員長のみが行うこととするものであります。

(9)のマスコミ取材につきましては、取材は原則として採決等委員協議を含めて記者席で行わせるという内容でありまして、委員会は採決等も含め、原則公開となっております。

次のページをお開きください。

(12)の調査等につきましては、アの県内調査、イの県外調査、ウの国等への陳情と分かれております。

アの県内調査についてであります。4点ございます。

1点目は、県民との意見交換を活発に行うため、常任委員会の県内調査において、県民との意見交換を積極的に行うというものです。

2点目は、調査中の陳情・要望等については、委員会は内部審査機関であり、対外的な権限を持つものではないため、後日回答する等の約束はしないというものであります。

3点目は、委員会による調査でありますので、単独行動による発着は、できる限り避けるというものであります。

4点目ではありますが、調査先は、原則として県内の状況把握を目的に選定されるものですが、県内での調査先の選定が困難であり、かつ、県政の重要課題に関して特に必要がある場合には、日程及び予算の範囲内で隣県を調査できるというものであります。

次のページをお開きください。

(15)の委員会におけるパソコン等の使用についてであります。

詳細は、タブレット資料12ページ、紙資料10ページにありますので、後ほど御確認ください。

(16)のオンライン委員会の運営についてであります。

詳細は、タブレット資料13～16ページ、紙資料11～14ページにありますので、後ほど御確認ください。

その他の事項につきましても、目を通していただきたいと思います。

皆様には、確認事項等に基づき、委員会の運

営が円滑に進むよう御協力をお願いいたします。

確認事項等について、何か御意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○川添委員長 それでは次に、今年度の委員会調査などの活動計画案についてです。

次のページの活動計画案にありますとおり、県内調査を5月に、県外調査を10月に実施する予定であります。

初めに、県内調査についてであります。県北調査、県南調査、それぞれの行程案を事前に作成しましたので、ページを進めて御覧ください。

加えて、お手元に資料として、過去5年分の総務政策常任委員会の調査実施状況と、県内調査調査先候補の概要も配付いたしておりますので、併せて御覧ください。

県内調査につきまして、何か御意見、御要望等はございませんか。

暫時休憩いたします。

午前11時26分休憩

午前11時27分再開

○川添委員長 委員会を再開いたします。

次に、10月に予定されております県外調査につきまして、御意見、御要望等がありましたら、この場でお伺いしたいと思います。

暫時休憩いたします。

午前11時27分休憩

午前11時29分再開

○川添委員長 それでは、委員会を再開いたします。

県内調査及び県外調査の日程、調査先等については、委員の御意見等も参考にしながら、正

副委員長に御一任いただくことで御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○川添委員長 それでは、そのようにさせていただきます。

そのほか、何かございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○川添委員長 ほかに何もないようでしたら、本日の委員会を終了したいと思います。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○川添委員長 それでは、以上をもちまして、本日の委員会を終わります。

午前11時29分閉会

署 名

総務政策常任委員会委員長 川 添 博

